

2019年度理事長候補者 決定



基本理念
利他のココロ輝く
人が集まるまちへ

スローガン
未来へ地域の“人”と共に
種を撒き育もう

- 基本方針
1. 「志」を共にする仲間に出会おう
 2. 青年として規律ある行動、利他のココロを持つ
 3. 私たちの地域の魅力を生み出そう
 4. 子どもたちの夢をクリエイティブしよう
 5. 子どもたちの日本文化のココロを育もう
 6. 弘前JC“らしさ”の追求をしよう

あおいりんご

作：須藤立也

profile プロフィール

氏名 秋元 駿一
(あきもと しゅんいち)

生年月日 昭和56年12月29日

勤務先 やまと印刷(株)

役職 専務取締役

弘前青年会議所における経歴

- 2011 入会
- 2012 会員委員会 副委員長
東北ゼミナール委員会 委員
- 2013 弘前白神プロモーション委員会 委員長
- 2014 例会地域連携 担当常任理事
- 2015 郷心委員会 常任理事
日本青年会議所 全国大会運営会議 委員
全国大会東北八戸大会支援委員会 委員
- 2016 拡大・例会委員会 副理事長
- 2017 専務理事
- 2018 けやぐ委員会 常任理事
日本青年会議所 渉外委員会 委員

広報誌あおいりんご
No.378

発行：
公益社団法人弘前青年会議所
〒036-8343
青森県弘前市東長町47-2
TEL/0172-34-4458
FAX/0172-34-4497
HP
<http://www.hirosaki-jc.com>
facebook・LINE・Twitter
公式アカウント
にて随時情報配信中!!



青春からいず

9月16日(日)に土手町カルチャアロードにて青少年事業を開催致しました。本事業は地域の子供たちが自身の可能性を信じ、努力し続けるための自己肯定感を高めることを目的とし、弘前市内の中学生30名で「青春からいず」を結成し、飲食ブースの出店を行いました。事業本番に至るまで4回の協議会を行い、中学生と店舗コンセプト、メニューの考案・試作、運営方法に関して協議を重ね実施致しました。事業当日は天候に恵まれ、カルチャアロード開始から多くの来場者へ、二元气に積極的な宣伝活動や調理・商品の提供を行いました。午後には販売目標であった全メニュー完売を成し遂げ、子供たちも一つの目的に全員で力を合わせ、成功できたことに、喜びと達成感が満ち溢れていました。

10月例会 Cross.S



10月8日(月・祝)に開催された、今回で6回目を迎えたCross.Sは、弘前市の世界自然遺産白神山地の恩恵と、育まれた文化の魅力を「音楽・食・クラフト」を通じ、市民や県外から訪れる多くの人々へ伝わるようお願いを込めた事業でした。メインとなる弘前市民会館でのライブには、弘前初の開催となったシンガーソングライターの家入レオさんのライブを行い、会場には県内外からの来場者で溢れ大盛況となりました。そして弘前公園市民広場では、弘前JC初めての試みとなるクラウドファンディングを活用し開催した「りんごちょううちんLighting Project」は、市内の老人ホームや保育園の方々、訪れた来場者と共に約200個のりんご提灯を制作、夜には公園内の木に灯され、幻想的で美しい景色となりました。



しかし、本事業は当初の予定として弘前公園にて企画していた、地産地消をテーマにし弘前の自慢の一品を集めた「津軽ハラペコフェス」や地元で活躍するアーティストや団体によるパフォーマンスステージは、前日まで大型の台風の接近が予測されており、お客様の安全を考慮いたしました結果、やむなく中止とさせて頂きました。天候の都合とはいえ、ご協力頂いた多くの皆さま、楽しみにしていたお客さまにご迷惑をお掛けいたしましたこと、またイベント開催直前のご案内となりましたことを、深くお詫び申し上げます。

当日は暖かな秋晴れの日となったため、両会場の来場者数は約4000人程と家族連れの方も多く見られた賑やかな日となりました。皆様からの多大なるご支援を賜り実施できました事を、心より感謝とお礼を申し上げます。



平成まんじ札

弘前青年会議所では今年度も平成まんじ札を実施いたしました。今年で7年目となるまんじ札ですが、例年より店舗数を10店舗増やして全50店舗で実施いたしました。最初は参加される方からも回る店舗さんが多いのではないかと、という話をご用意を頂くのではと思ったのですが、今年には126名の方がコンプリートされ、その多くの方からちょうど良かったというご意見も頂けました。小学校の夏休み期間に合わせた開催とさせて頂いたのですが、事務局が休みとなる土曜日からの開催との事もあり、土日過ぎた事務局が開く月曜には、コンプリートした方が2組も来られたのが印象的でした。

青森JC弘前JC対抗 ゴルフコンペ



8月25日(土)に夏泊ゴルフリンクスにて第4回青森JC弘前JC対抗ゴルフコンペが開催されました。天気が心配されましたが、無事夏泊らしい強風の中の親睦を深める非常に有意義なゴルフコンペとなりました。成績は小山内崇雅先輩の優勝もあり、4年連続で弘前JCの圧勝でした！

優勝	小山内崇雅(弘前JC OB)	79(38.41)
準優勝	中山 俊一(青森JC OB)	88(42.46)
3位	吉川 裕之(弘前JC 現役)	91(46.45)

対談 理事長と次年度理事長候補者



二〇一八年度理事長

須藤 立也

二〇一九年度理事長候補者

秋元 駿一

○まず、須藤理事長にお伺いしたいと思えます。今年度も残すところ二か月となりましたが、振り返ってみると、どんな一年だったでしょうか？

また、この一年で最も印象に残っていることを教えて下さい。
(須藤) 自分の思い描いていた人たちと共に汗を流し、たくさんの人に支え

られ、一つの区切りまで到達することができました。すでに感謝の気持ちでいっぱいです。

特に印象に残っているのは、理事予定者時期。自身が理事長を受けるという自覚と覚悟が足りなかった。この時期の理事構成メンバーの表情を今でもよく思い出します。きっと、自身中途半端な態度に、皆はついて行っていないのかと惑わしてしまったのだと思う。これは本当にメンバーの皆さんに悪い事をしたと今でも後悔しています。

○続いて、秋元次年度理事長候補者にお伺いします。基本理念を「利他のココロ輝く、人が集まるまちへ」と掲げていますが、どのような思いが込められているのでしょうか。

(秋元) 自分自身青年会議所活動の中で今まで様々な役職を経験させていただきました。私は委員長を経験したときに自分一人ではなにもできないと痛感しました。人と一緒に行動して、人と会話を重ねていく事で思いが伝わり、けやぐになり、信頼に繋がりが、それが運動に繋がっていくということを、一緒に汗を流した人たちが学び、そこで「利他」を学びました。

「利他」の精神を持って、人のために考えられる人がまちに一人でも増えれば、まちは輝き、今よりも一歩良くなるのではないかと思っています。そういった人たちが多く住まうまちを目指したいという思いで基本理念に掲げさせていただきました。たった一人の人でいいです。その人を思えるようになるれば利他と言う心が広がると思っています。利他の心を持つ人をJCの中、外一人ひとり作って運動を広げていきたいと思えます。

○引き続き、秋元次年度理事長候補者にお伺いします。既に2019年度が動き出していますが、どのようなお気持ちですか？

(秋元) ドキドキしていますね。そしてメンバーがまた一人新しい事を考える姿を見るとわくわくしてきます。理事長として一人で考える時間が多いですね。今までは委員会で議論していたことを今度は示す方ですし、すべてが新体験です。まずは来年へ向けて、皆さんを信じて、共にやっていきたい気持ちでいっぱいです。

○続きまして、須藤理事長にお伺いします。年度当初と現在を比較した時、ご自身の中で大きく変化したこと、弘前JCが変化したことは何だと思われませんか？

(須藤) 理事長をしていると様々な方とお話をする機会があります。その中で弘前JCはともスマートな考えを持つ方が多く、効率的かつ円滑に目標を達成するために、新しい考えや物を導入し、様々な角度から考えられる人が多いなと感じます。私自身、体験主義者であり自分で調べた事や、本などから得た知識しか信用してこなかった。しかし最近ではメンバーの方の様々な考え方が仕事の場などでもとても参考になっていきます。

弘前JCの変化としては、若い世代が増えて、顔ぶれがだいぶ変わってきました。若い方たちが「自分たちがやるしかない」という気持ちになっているのをうれしく思います。

○引き続き、お伺いします。今年度理事長として過ごされた経験の中から、「秋元次年度理事長候補者に是非これ

対談 理事長と次年度理事長候補者

を伝えたい！」ということがあれば、教えてください。

(須藤) 「逐次投入」これだけはやめてほしい。逐次投入とは力を小出しにするということ、最も失敗する戦略と言われます。今年度理事長をやっている気付いたことですが、みんなの力を分業していると、焼け石に水状態。たくさんある水も少しずつ投入しているといつかは無くなってしまいます。どうせやるなら、みんなで一斉に全事業、全行程を全体事業の気持ちでやるべき。そんなパワフル感を出せるよう、次年度理事長のリーダーシップを存分に発揮してください。

○逆に秋元次年度理事長候補者から須藤理事長へ質問はありますか？

(秋元) 2018年度では新しい取り組みにチャレンジしましたがきつかけはありましたか？

(須藤) 自身の仕事と通じるところもあり、新しいことをしたというよりは所信にも述べたように、過去の伝統文化を未来へとつなぐ架け橋となるよう、元々あるものを生かしたいという思いで始めました。まさに「温故知新」。またメンバーの能力を考えても絶対成功してくれると思っておりました。過去の伝統文化を未来へとつないでくれた



事は本当にうれいのです。

(秋元) 一番つらかったことはなんですか？

(須藤) 仲間の団結力がなくなっている姿を見ると辛いと感じます。人の成功を願うことが上に立った人の使命。メンバーの心がバラバラになっっていることに気づきながらも、直接手助けすることができないのが、非常に辛いです。

(秋元) 逆にこれは面白かったなというのがありますか？

(須藤) メンバーの焦っている姿をみるのは楽しいです。自分もそうだったなあ。通用しなかったり打ちのめされたり、そういうがんばっている姿をみると「お前頑張れよ!!」もお声に出さうになりますね。

(秋元) 気持ちが入っていくとそれが勝手に言葉に出てきますよね。逆に無理に理論武装してしまうと自分の粗が出てしまったり、事業が一番分かりやすく、事業当日をみると取り組んできた内容がそのまま出てきますし、面白いですね。

○再び、秋元次年度理事長候補者にお伺いします。秋元次年度が考える、2019年度弘前J.Cの理想の姿を教えてください。

(秋元) メンバーが「ぜひ入会したほうがいいよ！」と素直に言葉として言えるようになることですかね。中々難しいことは、JC運動をまだ理解していないかもしれません。私は青年会議所のやり方が100だとは思っていません。いろんな取り組みや考え方があの中で、青年会議所があり、そこで学んだ事が人生の中で活かせる機会をたくさん作ってほしいと思います。

ています。「一緒にJCやろうよ!」と誰もがしゃべれる組織であれば、人として魅力あふれる人間が集まっている会になるのではないのでしょうか。

○引き続きお伺いします。次年度、新任委員長に激励のメッセージやアドバイスがあればお伺いします。

(秋元) 新しいことにはどんどん挑戦してほしい。失敗を恐れず、元気にやってください。やらなければ物事は始まりません。怖くなって思ってもまずは一歩踏み出しましょう。そして困ったら周りを見たら仲間がいるはずですよ。その人を頼ってみましょう。強い絆で道が開けると必ず信じています。やりましょう!

○ここからは、お二人に質問させていただきます。

お二人が思う弘前J.Cの長所を教えてください。

(須藤) メンバーの温かさです。自分が委員長をやっていたときなど、成功体験を学ばせてくれる。決して切り捨てる事しない団体だと感じます。

(秋元) スピードですかね。蓋を開ければ、それぞれ他人のために考えて動く。指示をされるのを待つより、それぞれ考えながら能動的に動く人が多い団体ですかね。

○最後に今年度理事長として、また、次年度理事長候補者として、お二人からメンバーにメッセージをお願いします。

(須藤) 今年度の事業はどうだったか、委員長はどうだったかなどそこを評価してしまいがち。しかし、人に期待をすると不満が出ます。環境に期待をす



ると不安が出ます。それより自分の「出番だ」と思っていてほしい。メンバーも減少傾向にある今こそ一人ひとりが自分の出番だという意識をしてほしい。また、理事長候補者へも一言。小さく収まるな。目立ち過ぎなくらいがいい。

その方が秋元らしい。

「行き抜いて(突っ走れ)」

「息、抜いて(たまには立ち止まり)」

「生き抜いて(やり切ってくれ)」

この3つの「いきぬく」を聞いてほしいです。応援していますー秋元!!

(秋元) JCでは普通の生活よりも多くの時間とお金を費やします。忙しくなってくると立て込んでくると「つらい」「きつい」と口に出してしまいます。自分もその一人でした。ただJC活動をしている時間、会社でそして家庭で仕事・家事をしている人がいます。せっかく時間とお金を使ってJCで学んでいるならば、その方々に対して、自分が何か一つでも返さなくてははいけません。青年会議所はただの遊びのサークルではありません。自分自身が成長し人間力を高め、一人ひとりが魅力ある人になってほしいと思います。誰もが40歳で卒業です。ぜひ一つ一つの学びと時間を大切に、青年会議所で共に成長していきましょう。

9月例会



9月7日(金)に行われた9月例会では、弘前市役所七夕会(以下七夕会)の皆様と講師として来ていただき、弘前ねぶたの歴史や弘前ねぶたと弘前青年会議所の関係性を講義していただきました。講義の他にも担当

委員会で作成したねぶた笛を七夕会の方々と一緒に吹いたり、七夕会の演奏を聴かせて頂いたりと盛り沢山の例会となりました。

11月例会



11月6日(火)「お金の近未来〜平成から次代へ」一刻一刻と変化していくお金のあり方について学ぶ例会となりました。(株)青森銀行 小鹿様を講師としてお招きし、キャッシュレス化の現状・今後の可能性などについて学びました。会員も次代へ向けて取り残されないよう、講話を聴き、実りある例会となりました。

JCI世界会議(インドネシア)



10月30日〜11月3日、JCI世界会議がインドネシアのゴアの地で開催されました。

NOM会頭会議、常任理事会議、理事会議といった組織運営に関する会議、世界会議スローガンに基づくセミナー、会員の資質向上を目的とした各種セミナー、分科会が開催されました。同時に「個人」「地域社会」「マネージメント」「国際性」といった、JCIの理念を広めるための褒賞(Aワード)、あるいはTOYP(人間力)プログラムも開かれ、高い人気を得ています。そして、開会式、各種セレモニーが世界会議に華をそえ、会頭招待バンケット、ガーラ、また、ジャパンナイトをはじめとする各NOMナイトが、参加会員の友情を深め友好の輪を広げました。

苗栗国際青年商會



50周年記念式典

11月10日(土)に行われた姉妹JCIである苗栗JCIの50周年記念式典に、弘前青年会議所から10名の会員が参加してきました。苗栗ならではのおもてなしを受け、伝統や苗栗の楽しさを学び、メンバーはとても刺激を受けた。地域発展の為にモチベーションを上げるいい機会だったと思います。また、仲間同士の絆をより一層深めました。

日本JCI出向者報告



今年度、東北地区協議会にゼミナール委員会担当の副会長として出向させていただきました。引き続き「型破り」と「意識」をコンセプトに1年間邁進し、今年もまた沢山の学びを得ることができました。ありがとうございます。

東北ゼミナール
会務担当副会長
三國典央

JCI研修



8月20日(月)、今年度東北地区協議会会長を務めている渡部洋平君を講師にお迎えし研修会を行いました。JCIの理念や価値観といった「組織」の部分や、JCIの本業への活かし方、向き合い方などについてご講演いただきました。会長自身の経験談なども聞くことができ、大変に有意義な研修会となりました。

防災・減災



9月16日(日)カルチュアロードにて、弘前青年会議所「防災・減災の事業」ブースを設けて広く防災の意識を高めるために防災マップ作りと防災クイズ、防災用品とパネル展示などを行いました。

防災マップを作りながら災害時の備えがまだという声も聞こえ、これまでに大きな災害がなかった地域ではあるが、あらためて防災知識を備えることができたと思います。

第67回全国大会



10月4日(木)〜7日(日)全国大会宮崎大会は、台風により波乱の連続でした。弘前青年会議所からは卒業予定者3名、現役会員6名の計9名が参加致しました。開会式の中止をはじめ、大会式典・卒業式は会場変更や入場規制が行われたりと、イレギュラーが続く中でも、「愛と希望溢れる」おもてなしの気持ちを感じられる大会でした。

～ 2018 年度卒業生から一言～



清藤 洋介 君

家庭や子供、仕事にまちづくり、全ての選択する道はつながっています。結局は自分の成長なくしては、何も出来ないんだと思います。誰かの喜ぶ顔が見たくて、感動させたくて。必死に食らいついて、後悔のないよう探し続けて下さい。



川嶋 貴裕 君

メンバーの皆さん、6年間ありがとうございました！今後も仕事にJCに頑張ってください！



池田 守之 君

約1年という短い期間でしたが、皆様の言動・行動から学ぶことが多々ありました。ありがとうございました！



後藤 友樹 君

長いようで短い5年間でした。皆様に出会えたことに感謝申し上げます。今後も弘前の為、子供達の為、何より自分の為に頑張ってください！



弘前青年会議所
随時、新入会員募集中！



島津 隆義 君

健康、従業員、家族に感謝してJC活動を頑張ってください！成長させてもらいありがとうございます。みんなに会えて良かったです。



日本青年会議所 総務グループ
渉外委員会 清藤副会頭補佐 秋元駿一

皆様の多大なるご協力の下、2018年度、公益社団法人日本青年会議所副会頭として清藤洋介君が全国を駆けめぐりました。特に担当であった全国大会では台風の直撃を受けて大幅な事業変更を余儀なくされ、連日遅くまで協議と対応を重ね、自身も卒業生の立場もありながら、全国各地の卒業生の為に最後まで、最高の設えを模索しておりました。事業報告が終わるまでもう少し、本当にお支えいただいたOB・現役・各地の補佐の皆様には感謝申し上げます。最後までどうぞよろしくお願い致します。



日本JC
副会頭の現場から